

観点別学習状況の評価と評定への総括について

1 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

(1) 各単位時間の観点別学習状況の累積

題材指導計画の各単位時間の目標に準拠した評価規準に基づいて、学習の達成状況を判断したとき、A：「十分満足できる」、B：「おおむね満足できる」、C：「努力を要する」のいずれかの判断がなされる。これを各時間毎に評価し、全時間分を記録し、1題材を通して評価の累積を行う。(表1)このとき、次のことに配慮しながら行うことが大切である。

1単位時間の中心とする評価規準は1項目程度とし、目標に準拠して明らかに判断できる範囲のもの、時間内に評価と同時に指導ができるものとする。

評価の方法を作業・活動・作品・発言・記述・面談等と工夫し、客観的・分析的な評価を行う。このとき、学習プリントや机列表を活用するとよい。

「関心・意欲・態度」「創意工夫」は、補助簿等を活用して、できる限り継続的・累積的に評価する。(参考1)

【例】題材名「見つけよう！住みよいくらし」(全13時間)

(表1) 単位時間の評価規準の評価記録

時	観点	評価規準	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			A Y	I S	I K	I N	O S	O Y	K Y	K K	K A	S T	S M
1	アー	自分の生活に関心をもち、快適にくらすためにどうしているか考えようとしている。(関・意・態)	B	A	A	B	B	A	B	C	A	B	B
2	ウー	快適に生活するための課題を解決する見通しをもつことができる。(技)	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
3													
4	アー	快適な住まい方に関心をもち、自分の課題に進んで取り組もうとしている。(関・意・態)	B	A	B	A	A	B	A	B	A	A	B
5	イー	課題に沿って快適な住まい方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。(創工)	B	A	B	A	B	B	A	B	A	B	B
6	イー	自分の家庭生活と検証した結果を結びつけて考えたり、仲間に伝えるように自分なりに工夫したりしている。(創工)	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
7													
8	エー	快適なくらし方について理解している。(知・理)	A	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B
9	アー	身に付けた知識や技能を生かして家庭で実践しようとしている。(関・意・態)	B	A	B	A	B	A	A	C	A	B	B
10	アー	町内の人々が互いにかかわり支え合いながら生活していることに関心をもっている。(関・意・態)	B	A	B	A	B	A	A	C	B	B	C
11	イー	町内で快適にくらすために自分ができることを見つけた	A	B	B	A	B	C	B	B	B	A	B
12		たり、自分なりに工夫して行おうとしたりしている。(創工)											
13	ウー	町内で心地よく住まうために行った大作戦の目的や手順をまとめている。(技)	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
	エー	町内の一員として皆が快適な生活ができるように配慮していることがわかる。(知・理)	A	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B

(参考1：第4時 アー 机列表を活用した授業時間内の補助簿)

<p>K.H</p> <p>B... 掲示資料によって主体的に課題を決め、進んで計画を立てることができた。</p>	<p>I.N</p> <p>A... 部屋全体が暖まりにくいという問題点から、その温度差と、暖房器具の位置について調べる計画を熱心に立てることができた。</p>	<p>N.D</p> <p>C... 家庭の問題点から換気の工夫を課題としているが、計画が粗く具体的に考えようとしなかったため、個別にアドバイスをした。</p>	<p>M.M</p> <p>C... 家庭の問題点はよく気付いているがそこから、改善に向けて何を調べたらいいのか絞ろうとしなかったため、事例を示して助言した。</p>
<p>I.K</p> <p>B... 掲示資料により課題をはっきりさせ、進んで照度計を操作したことで見通しをもち、計画を立てることができた。</p>	<p>K.A</p> <p>A... 換気の悪さの原因を窓の数と位置と予想し、実験的に調査する計画を楽しんで立てることができた。</p>	<p>M.T</p> <p>B... 照度計を実際に操作することを通して課題を明確にし、進んで計画を立てることができた。</p>	<p>M.R</p> <p>B... カーテンの色と明るさ・温度の関係を調べる計画を進んで立てることができた。</p>

(2) 1 題材における観点別学習状況の総括

各単位時間の評価規準に基づいた評価を累積したものを、4つの観点別学習状況に並べ替えて整理し、各観点毎の評価を総括する。(表1 表2)

(表2) 観点別学習状況に並べ替えた評価記録例 (A B Cで評価)

観点	評価規準	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		A Y	I S	I K	I N	O S	O Y	K Y	K K	K A	S T	S M
関心・意欲 ・態度	自分の生活に関心を持ち、快適にくらすためにどうしているか考えようとしている。	B	A	A	B	B	A	B	C	A	B	B
	快適な住まい方に関心を持ち、自分の課題に進んで取り組もうとしている。	B	A	B	A	A	B	A	B	A	A	B
	身につけた知識や技能を生かして家庭で実践しようとしている。	B	A	B	A	B	A	A	C	A	B	B
	町内の人々が互いにかかわり支え合いながら生活していることに関心をもっている。	B	A	B	A	B	A	A	C	B	B	C
創意工夫	課題に沿って快適な住まい方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。	B	A	B	A	B	B	A	B	A	B	B
	自分の家庭生活と検証した結果を結びつけて考えたり、仲間に伝えるように自分なりに工夫したりしている。	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
	町内で快適にくらすために自分ができることを見つけたり、自分なりに工夫して行おうとしたりしている。	A	B	B	A	B	C	B	B	B	A	B
技能	快適に生活するための課題を解決する見通しをもつことができる。	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
	町内で心地よく住まうために行った大作戦の目的や手順をまとめている。	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
知識・理解	快適なくらし方について理解している。	A	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B
	町内の一員として皆が快適な生活ができるように配慮していることがわかる。	A	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B
4 観点	題材の関心・意欲・態度	B	A	B	A	B	A	A	C	A	B	B
	題材の創意工夫	B	A	B	A	B	B	B	B	A	A	B
	題材の技能	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A
	題材の知識・理解	A	B	B	A	B	B	A	B	B	B	B

(3) 学期末における観点別学習状況の総括の仕方の例

各題材の観点別学習状況の評価を総括する場合

4つの観点別学習状況について、各題材を通しての観点別評価を判断し、4つの観点を総合的に判断して、学期の総括とする。

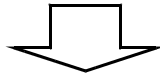
観 点	題材 1	題材 2	題材 3	観点別評価
関心・意欲・態度	A	B	B	B
創意工夫	B	B	A	B
技能	A	A	B	A
知識・理解	B	B	A	B

2 観点別学習状況の評価から評定への総括

(1) 基本的な考え方

評定は、学習指導要領に示す家庭科の目標に照らして学習の実現状況を総合的に評価するものである。観点別学習状況の各観点は、学習指導要領に示す家庭科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価は、評定を行う場合において基本的な要素となるものである。この両者の関係を前提とすると、観点別学習状況の評価結果を総括していけば、観点別学習状況の評価と評定が以下のような対応関係にあることが理解できる。

観点別学習状況の評価		評定	
十分満足できる	A	十分満足できる	3
おおむね満足できる	B	おおむね満足できる	2
努力を要する	C	努力を要する	1



	「関心・意欲・態度」	「創意工夫」	「技能」	「知識・理解」	「評定」
A	A	A	A	A	3
B	B	B	B	2
C	C	C	C	1

上記の場合を除き、各観点ごとのABCが決まれば評定も必然的に決まるものではなく、様々な組合せが考えられる。同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、日常観察や各題材の評価の積み上げから総合的に判断する。

(2) 各学期の観点ごとの評価の総括（通知票等への生かし方を含む）
例

観 点	題材 1	題材 2	題材 3	観点別評価	通知票等
関心・意欲・態度	A	B	B	B	2
創意工夫	B	B	A	B	
技能	A	A	B	A	
知識・理解	B	B	A	B	

(3) 各学期の観点別学習状況の評価を評定に総括する場合

4つの観点別学習状況について、1～3学期を通して観点別評価を判断し、4つの観点を総合的に判断して、学年の評定とする。

例

観 点	1 学期	2 学期	3 学期	学年	評定
関心・意欲・態度	B	B	B	B	2
創意工夫	B	A	A	A	
技能	A	B	B	B	
知識・理解	B	C	A	B	